

2009年3月期第2四半期 決算説明会

- 業績の概況と基本方針

 - 2008年度の経営方針と第2四半期の取り組み

- 業績の状況と見込み

 - 第2四半期の業績と09年3月期通期の見込み

2008年11月12日
株式会社キョーリン



2009年3月期第2四半期 決算説明会

●業績の概況と基本方針

2008年度の経営方針と第2四半期の取り組み

●業績の状況と見込み

第2四半期の業績と09年3月期通期の見込み

2008年11月12日
株式会社キョーリン
代表取締役社長 古城 格



2009年3月期第2四半期累計期間 決算概観(連結)

09年3月期 第2四半期累計期間連結業績(実績)

【売上】 国内新医薬品等の売上が増加し、売上高は403億円（前年比2.3%増）となりました。

【利益】 売上高が増加したものの、一時金収入の減少、薬価改定の影響により売上原価率が上昇し、売上総利益が約21億円減少しました。

一方、販売費及び一般管理費は約6億円減少した結果、営業利益は12億円（前年比55.4%減）となりました。

四半期純利益は、特別損失としてガチフロの自主的な販売中止に伴う損失約26億円及び投資有価証券評価損約4億円を計上した結果、▲16億円となりました。

09年3月期 通期連結業績(予想)

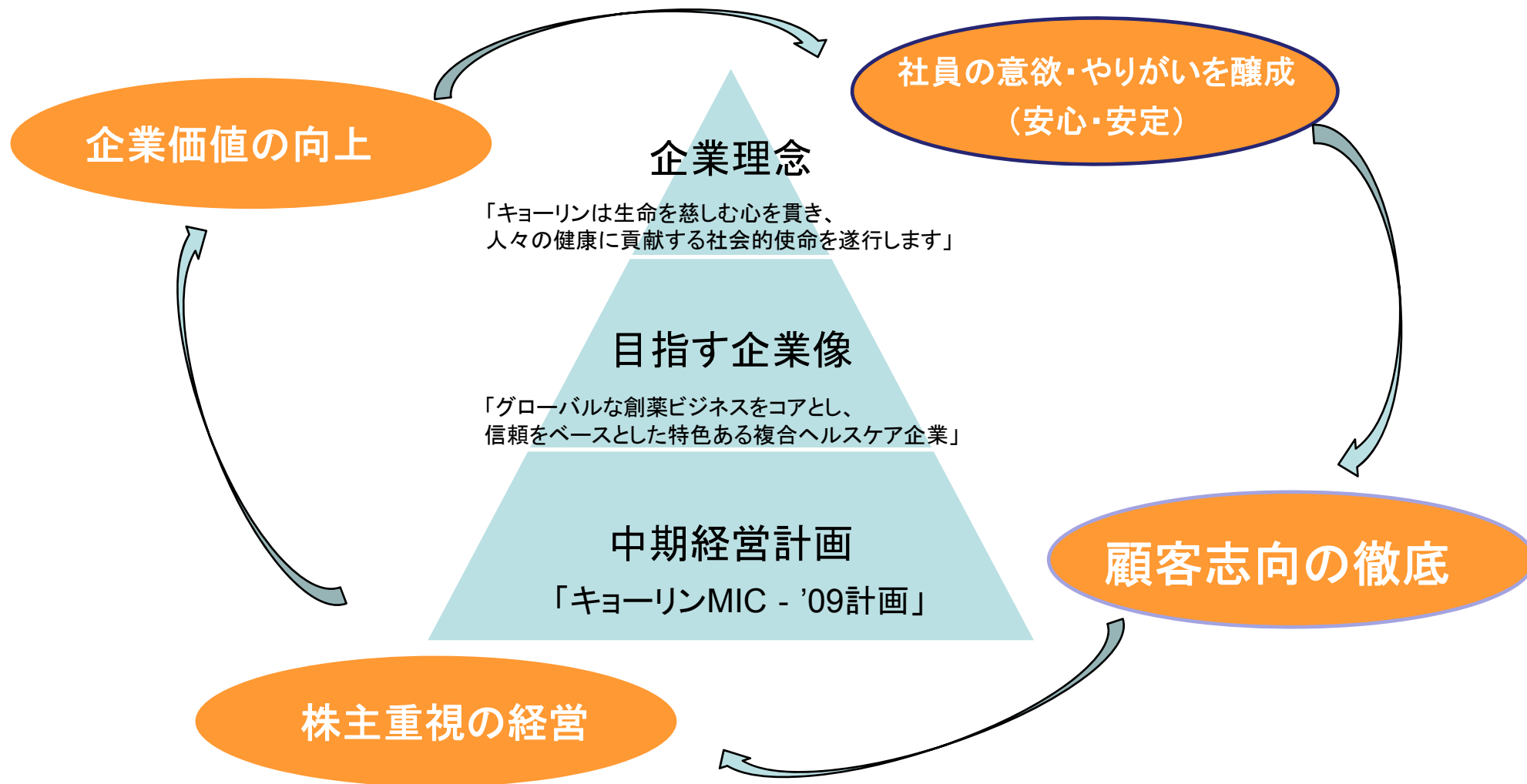
【売上】 国内新医薬品においては、販売中止いたしましたガチフロの売上減の影響はあるものの、主要製品の売上拡大及び08年10月1日付で実施した日清キョーリン製薬(株)の吸収合併により、連結売上高は886億円（前年比9.3%増）と伸長する見込みです。

【利益】 日清キョーリン製薬(株)との統合が収益に貢献し、営業利益は67億円（前年比7.2%増）と増益を見込みます。当期純利益は、特別損失約34億円を予想することから16億円（前年比26.9%減）を見込みます。

単位： (百万円)	07年3月期 第2四半期	08年3月期 第2四半期	09年3月期 第2四半期	前年比
売上高	35,093	39,363	40,261	2.3%
営業利益	1,940	2,788	1,243	▲55.4%
経常利益	2,061	3,118	1,175	▲62.3%
四半期 純利益	833	953	▲1,606	—
EPS	11.21円	12.74円	▲21.48円	—
総資産	117,915	121,776	123,299	1.3%
純資産	94,993	97,427	94,304	▲3.2%

09年3月期 (予想)	前年比	09年3月期 (当初予想)
88,600	9.3%	90,400
6,700	7.2%	8,000
7,000	5.4%	8,400
1,600	▲26.9%	4,900
21.39円	—	65.49円
—	—	—
—	—	—

キョーリンググループの基本方針



■現在推進中の「キョーリンMIC-'09計画」を継続する
「より公明性・公正性・透明性の高い経営に取り組む」

2008年度の経営方針

2008年度経営方針

新軌道による成長路線の確保

—新薬事業の成長加速と周辺事業の地力養成—

重点項目

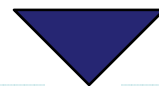
■ブランド重視の経営を推進 ■統合効果の最大限の発揮

●新薬事業は概ね順調に推移している ●周辺事業に遅れが生じている

08年度位置付け:「キョーリンMIC-'09計画」の目標達成に向け、08年度は05~07年度の取り組みで明確になった諸課題に修正を加える年とする

新薬事業の成長加速

- 新薬事業の更なる強化
- 日清キョーリン製薬との統合効果の発揮



周辺事業の地力養成

- キョーリン リメディオ、ドクタープログラムの黒字化を目指す

新薬事業の成長加速

(1)国内営業力の更なる強化

FC戦略

卸店政策

国内営業力を強化

FC戦略:呼吸器内科、耳鼻科、泌尿器科を中心に営業資源を重点化する戦略

キプレスの続伸

剤形・効能追加

(08年度上期 25億円増)

ペンタサの増加

事業の一本化

(同 27億円増)

ウリスの伸長

長期処方解禁

(同 1億円増)

08年度上期 国内自社販売 売上高(薬価ベース)伸長率 15%を達成
(国内医療用医薬品伸び率順位) 業界第2位(売上 上位40社中)

日清キョーリン製薬の統合効果の発揮

ペンタサの売上増に加え国内新医薬品売上高の増加率10%以上を目指す

国内新医薬品売上高*

(07.9実績) (08.9実績)

303億円⇒312億円

(08.3実績) (09.3予想)

633億円⇒699億円

* 契約一時金等を含む

Copyright 2007 IMSジャパン(株)
出典:IMS-JPM 2008年4月~9月
無断転載禁止

新薬事業の成長加速

(2)導入によるFC領域の強化：KRP-108の状況

喘息治療薬 KRP-108(Flutiform)の導入

◆吸入ステロイド薬(プロピオン酸フルチカゾン)と長時間作動型β刺激薬(フマル酸ホルモテロール)の合剤

・08年4月22日 英国SkyePharma社と国内ライセンス契約締結

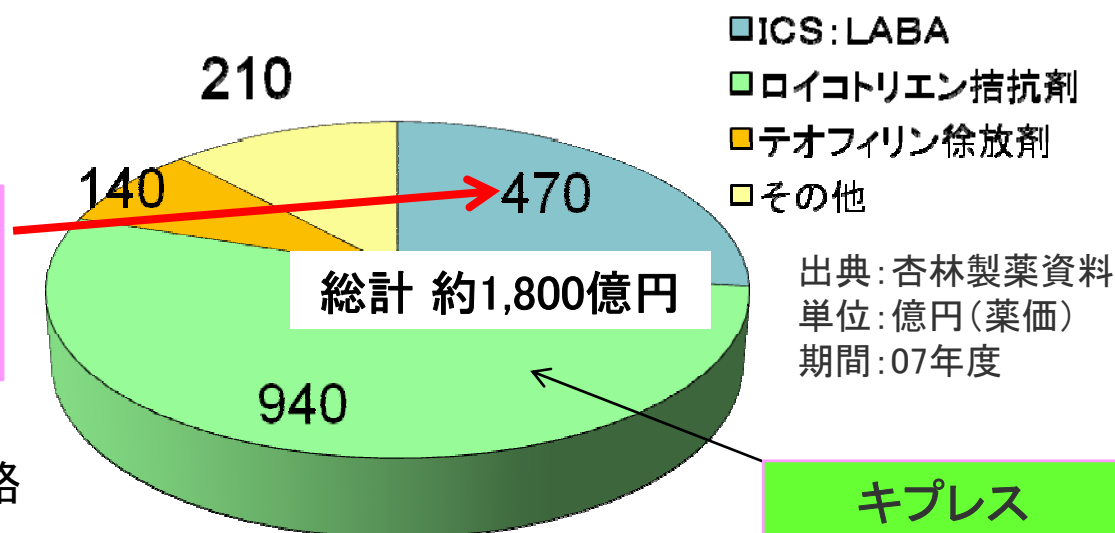
08年8月 当第2四半期にPh II 臨床試験を開始

参考情報

喘息市場の現状(長期管理薬)

Flutiformの開発により喘息市場で2番目に大きいICS、LABA市場への参入を目指す

ICS:吸入ステロイド
LABA:長時間作動型β刺激薬の略



喘息領域で更なるプレゼンス向上を目指す

新薬事業の成長加速

(3)パイプライン進展：糖尿病治療薬KRP-104の状況

◆08年8月 海外でのPh II aを終了しPOCを確立した

◆サマリー

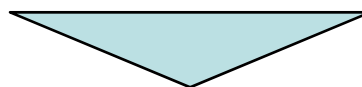
主要評価項目であるHbA1c(12週後)はKRP-104 60mg×2回/日 投与群、120mg×1回/日 投与群でプラセボ群に比較して有意に低下し、両投与群間の効果に差は認められなかった

	KRP-104 60mg×2回/日	KRP-104 120mg×1回/日
対プラセボ投与群 HbA1c 低下率	-0.64% P<0.0001	-0.54% P=0.0003
HbA1c値 7%未満※の患者さん	約40%	

対象 :メトホルミン単独治療で血糖管理が不十分な2型糖尿病患者220例(HbA1c平均値7.9%)

試験方法 :プラセボ投与群、KRP-104投与群(60mg×2回/日、120mg×1回/日)の3群間でのダブルブラインドテスト

※米国糖尿病学会の推奨する7%未満の目標値



当該試験の結果をもとに早期導出を目指す

新薬事業の加速

(4)日清キョーリン製薬との統合効果の発揮

■ 効率的な営業活動

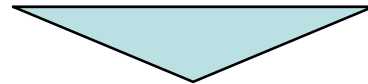
- ・ペンタサに加えその他主力製品の売上拡大を図る
- ・MR数の拡充により750名体制を構築する

■ 研究開発力の強化

- ・研究者約40名の増員、免疫・炎症領域の強化を図る
- ・臨床開発部門を拡充する

■ 効率経営の実現

- ・大阪工場の閉鎖により効率的な生産体制の構築を図る
- ・上福岡研究所、本社・営業所をキョーリン製薬へ集約する



120名の人員減を含めた経費の削減（8～10億円/年間）



更に統合による相乗効果の発揮を図る

ガチフロ錠の自主的な販売中止

販売：2008年9月30日付けで自主的に販売中止

背景：重篤な血糖値異常の副作用報告があり、2003年3月に緊急安全性情報を発出し、適正使用の徹底を図る。血糖値異常の報告件数は低下し、専門医からもその効果は評価され、これまでご使用いただいていた。
この度、米国オレンジブックからの削除（後発品申請を今後受理しないためのFDAの措置）をきっかけとして各方面、ご意見を伺った。
結果、血糖値異常の発現件数は低下したものの、回避することは難しいこと等に鑑み、
今後の患者さんへの処方による便益とリスクを勘案し、自主的に販売を中止。

売上高：約35億円（08年3月期：両社合計薬価ベース）キョーリン製薬23億円（08年3月期：決算ベース）
業績への影響：売上高予想を23億円（当初）から6億円に下方修正し、特別損失 約26億円を計上

ガチフロキサシン点眼液への影響はない

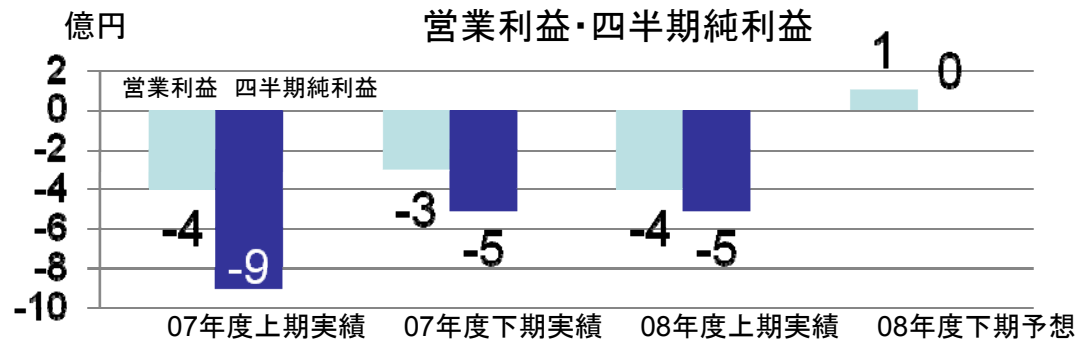
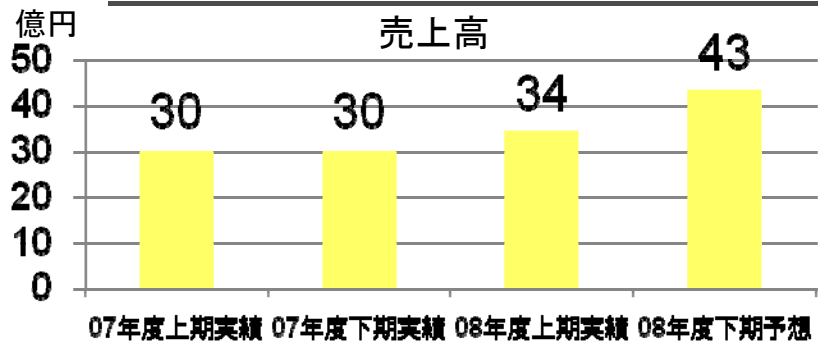
（米国）アラガン社

千寿製薬

周辺事業の地力養成

(1) キョーリン リメディオ

2008年度上期の状況



上期の概況(前年との比較)

- 売上高
 - ・日清キョーリン製薬からの承継品による増加
 - ・既存の主要製品及び追補品による増加
- 営業利益
 - ・薬価改定及び価格競争激化による原価率の上昇

課題への対応

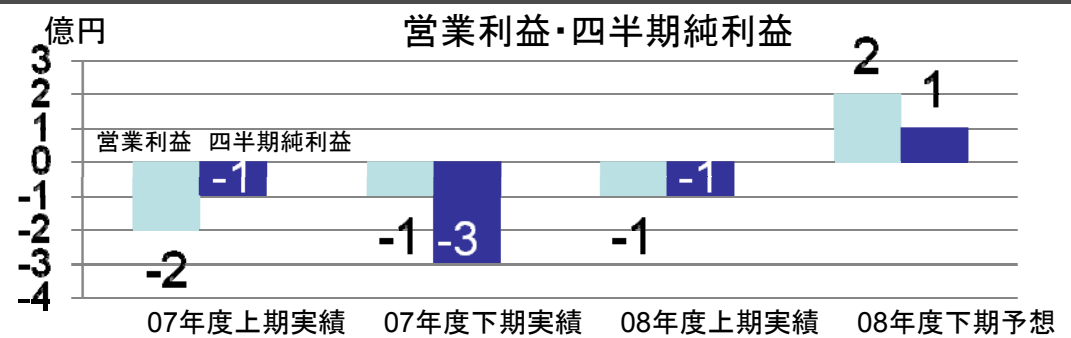
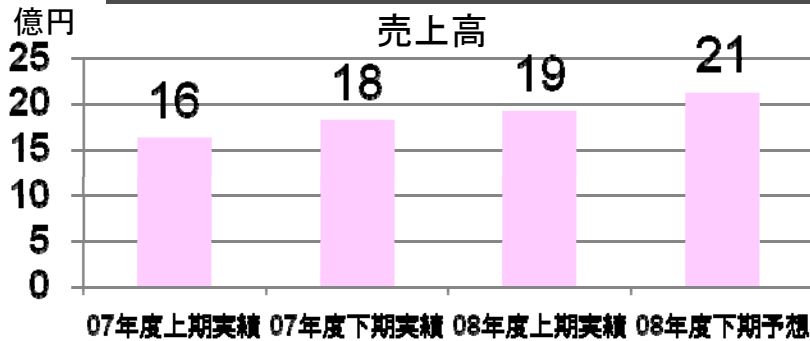
- ◆原価率低減と管理の徹底
 - ・販売価格の適正化
 - ・卸ルートの上上拡大
 - ・販管費の削減

	2008年度上期(取り組み)	2008年度下期(対策)
営業力の強化	口座軒数 9400軒増加 MR数 76名 広域卸:東邦薬品・アルフレッサ推奨メーカー入り	承継先の活用による売上増加・・・口座数約10000軒 卸店販売ルートの上上増加・・・卸店30:販社70 販売体制の強化(MR増員、組織の変更など)
原価率の低減	キョーリン製薬の主要製品の受託生産を 4月より開始	工場稼働率UPによる原価の低減 不採算品の中止
品揃え	キョーリン製薬(3品目)、日清キョーリン製薬(13品目) の販売を移管 追補品4品目発売	販売移管製品の納入先のスムーズな承継 追補品の拡大(下期:3品目発売)

製品納入軒数の拡大と原価率低減により、08年度下期からの黒字化を目指す

周辺事業の地力養成

(2)ドクタープログラム 2008年度上期の状況



上期の状況

- ◆4月発売の新製品2品目が好調
- ◆新規販売チャネルの売上が寄与 (TVショッピング)
- ◆広告費・販促費の予算内での使用遵守

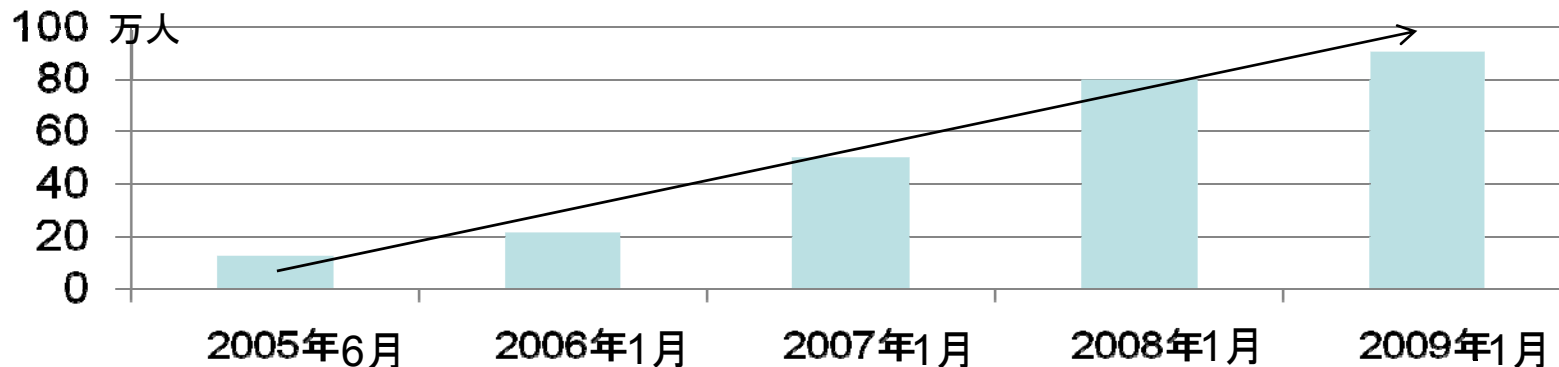
インナーホワイトエッセンス

UVケアミルクEX

今後の取組み

- ◆新規顧客獲得のための効率的な販促の実施 (新たな媒体開発)
- ◆業務標準化・効率化・システム化による人員増加の抑制

顧客名簿数



中期経営計画「キョーリンMIC計画」

キョーリンMIC - '09計画(2005年度~2009年度)

◆基本方針:「進化と創造Ⅱ」

MIC - '09計画 基本戦略

- ① グローバル創薬企業としてのポジショニングの確立
- ② 創薬投資を支える医薬事業の競争力強化
- ③ 医薬事業に次ぐ、将来を担う新規事業の構築

好調な新薬事業を継続拡大

アライアンス戦略の強化

- ◆FC領域の製品導入の積極的な推進
- ◆開発製品の早期の導出

09年度 ROE 7.0%の達成を目指す

2009年3月期第2四半期 決算説明会

- 業績の概況と基本方針

2008年度の経営方針と第2四半期の取り組み

- 業績の状況と見込み

第2四半期の業績と09年3月期通期の見込み

2008年11月12日
株式会社キョーリン
取締役常務執行役員 穂川 稔



2009年3月期第2四半期累計期間 連結業績

単位:億円

	前期実績	当期実績	対前年増減
売上高合計	394	403	+ 9
◆新医薬品	328	330	+ 2
国内	303	312	+ 9
海外	25	18	▲ 7
◆後発医薬品	25	29	+ 4
◆ヘルスケア	35	37	+ 2
◆その他	5	6	+ 1
営業利益	28	12	▲16
経常利益	31	12	▲19
四半期純利益	10	▲16	▲26

■売上高 403億円

●国内新医薬品 312億円

・ムコダイン
・キプレス
・ペンタサ
・ウリトス

前期実績	⇒	当期実績
90	⇒	87
79	⇒	104
44	⇒	71
5	⇒	6

* その他(バイナス、ヘスパンダーの自社販売終了)、一時金収入の減少等
* ガチフロ錠は9月30日付で自主的に販売中止

●海外新医薬品 18億円

・ガチフロキサシン
・一時金収入の減少

16	⇒	14
----	---	----

●後発医薬品 29億円

・重点商品の伸長、追補品・承継品による売上増加

●ヘルスケア 37億円

・ミルトン
・ドクタープログラム社

10	⇒	9
16	⇒	19

●その他 6億円

◆原価率: 前年比6.7ポイント上昇(37.3%⇒44.0%)

* 上昇要因: 薬価改定(約4%)の影響、一時金収入の減少、製品販売構成の変化

◆研究開発費率: 前年比2.1ポイント低下(14.4%⇒12.3%)

研究開発費: 57億円⇒50億円(7億円減)
減少要因: 前期は共同開発の費用の期ずれによる計上
増加要因: 導入品フルチフォームの契約一時金を計上

◆販管費率(除くR&D費): 前年比0.5ポイント低下(41.1%⇒40.6%)

162億円⇒163億円(1億円増)

■営業利益 12億円

◆営業利益率は3.1%と4.0ポイント低下

■四半期純利益 ▲16億円

* 特別損失31億円(ガチフロ約26億円、投資有価証券評価損約4億円等)

■配当(第2四半期末) 4円00銭

対前年	対予想
(+9)	(+ 6)
(+9)	(+ 3)
(▲ 3)	(▲ 3)
(+25)	(+ 9)
(+27)	(+ 1)
(+ 1)	(▲ 1)
(▲ 7)	(+ 2)
(▲ 2)	(+ 1)
(+ 4)	(+ 3)
(+ 2)	(±0)
(▲ 1)	(▲ 1)
(+ 3)	(±0)
(+ 1)	(+ 1)
(▲16)	(+ 10)
(▲26)	(▲15)

2009年3月期通期 連結業績予想

単位:億円

	前期実績	修正予想	対前年増減
売上高合計	811	886	+75
◆新医薬品	676	731	+55
国内	633	699	+66
海外	43	32	▲11
◆後発医薬品	51	63	+12
◆ヘルスケア	73	80	+7
◆その他	11	12	+1
営業利益	63	67	+4
経常利益	66	70	+4
当期純利益	22	16	▲6

■売上高 886億円

●国内新医薬品 699億円

- ・ムコダイン
- ・キプレス
- ・ペンタサ
- ・ウリトス
- ・ガチフロ

・一時金収入の減少を見込む

●海外新医薬品 32億円

- ・ガチフロキサシン

* アラガン社ザイマーは売上増を見込む(\$98MM⇒\$103MM:現地売上)

* 為替変動の影響

・一時金収入の減少を見込む

●後発医薬品 63億円

* 日清キョーリン製薬からGE品の販売移管、追補品・重点商品の売上拡大

●ヘルスケア 80億円

- ・ミルトン
- ・ドクタープログラム社

●その他 12億円

◆原価率 約1ポイント上昇を予想

* 薬価改定(約4%)の影響、一時金収入の減少及び製品販売構成の変化等

◆研究開発費率 ...13.4%⇒12.4%:1ポイント低下を予想

研究開発費:108億円⇒110億円(2億円増)

* 日清キョーリン製薬の統合の影響、導入品フルチフォームの契約一時金を計上

◆販管費率(除くR&D費) ほぼ横ばいを予想

販管費増加要因:日清キョーリン製薬の統合

■営業利益 67億円

◆営業利益率は7.6%と0.1ポイント低下を予想

■当期純利益 16億円

* 特別損失約34億円を見込む

■配当(通期) 11円00銭(予想)

* 配当に対する考え方:配当性向50%を目指す

前期実績	⇒	修正予想
212	⇒	207
191	⇒	234
88	⇒	155
7	⇒	19
23	⇒	6

対前年

(+75)

(+66)

(▲5)

(+43)

(+67)

(+12)

(▲17)

(▲11)

(▲4)

(+12)

(+7)

(+1)

(+6)

(+1)

(+1)

(+4)

(▲6)

(▲6)

(+4)

(▲6)

(+4)

(▲6)

(+4)

(+4)

(▲6)

(▲6)

(+4)

(▲6)

当初予想との差異

(▲18)

(▲9)

(▲9)

(+18)

(+4)

(▲1)

(▲17)

(▲8)

(▲3)

(+2)

(▲1)

(▲1)

(±0)

(±0)

(±0)

* 原価率は
ほぼ横ばいを予想

* 販管費率は
約1P低下を予想

参考資料

開発品一覧①(08年11月11日現在)

Ph II ~ 申請中

※: 前回(09年3月期第1四半期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
※申請 (07年12月)		ペンタサ	潰瘍性大腸炎・ クローン病 治療剤	フェリング 社	潰瘍性大腸炎の用法・用量変更 (高用量の追加)	
	(ガルデルマ社 発売中)	塩酸アモロルフィン ネイルラッカー	爪白癬治療剤	自社	日本初のネイルラッカー製剤	
	Ph II (04年10月)	KRP-204 (錠)	抗肥満剤	日清製粉	選択性の高いβ3受容体作動薬 従来のβ3作動薬に比べて心への影響が少なく、 肥満を改善することが期待される	日清製粉グループ本社 日清ファルマと共同開発 Ph II a終了
Ph II (07年3月)		KRP-204 (錠)	過活動膀胱 治療剤	日清製粉	β3受容体作動薬 膀胱におけるβ3受容体の活性化により膀胱を弛緩 させ蓄尿機能を高めることが期待される	日清製粉グループ本社 日清ファルマと共同開発 ・Ph II a終了
Ph II (05年3月)	(エーザイ Ph III)	AS-3201 (錠)	糖尿病合併症 治療剤	大日本 住友製薬	アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞 内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病性神経障害を 改善する	・大日本住友製薬と 共同開発(国内のみ) ・Ph II b(07年9月)開始
	Ph II (04年6月)	KRP-101 (錠)	脂質代謝改善/ 糖尿病治療剤	自社	PPARαアゴニスト。中性脂肪等脂質代謝改善作用に 加えて、糖尿病に対する有効性が期待される	Ph II a終了
Ph II (08年2月)	Ph II (07年9月)	KRP-104	糖尿病治療剤	自社	DPPIV阻害剤。インスリン分泌ホルモンの分解を抑え ることにより血糖低下作用を示す。副作用の発現が 少ない糖尿病治療が期待される	※海外Ph II a終了 (08年8月)
※Ph II (08年8月)	(米国:アボット 欧州他: ムンディファーマ Ph III)	KRP-108	気管支喘息治 療剤	スカイ ファーマ社	ステロイド及び長時間作動型β作動薬の配合剤で利便 性やコンプライアンスに優れる	スカイファーマ社と ライセンス契約(08年4月)

開発品一覧②(08年11月11日現在)

POCプロジェクト(前臨床~Ph I)

※: 前回(09年3月期第1四半期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
	Ph I (07年7月)	KRP-203	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調整剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ノバルティス社と ライセンス契約(06年2月)
	Ph I (07年10月)	KRP-105	脂質代謝改善	自社	選択性の高いPPAR α アゴニスト。KRP-101よりもさらにPPAR α 受容体に対して選択性が高い。脂質改善作用に加え、アディポネクチンの増加、レプチンの減少、体重増加抑制作用などが動物実験で確認されており、新たな脂質改善剤として期待される	
前臨床		※KRP-107	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	S1P1受容体選択的アゴニスト。	

開発品一覧③(08年11月11日現在)

導出品の状況

※: 前回(09年3月期第1四半期)からの変更点を示す

製品名・ 開発コード	導出先・ 共同研究先	開発段階	薬効	起源	備考
アルファガン/ アルファガンP	千寿製薬	国内PhⅢ (07年7月)	緑内障治療薬	米国 アラガン社	・アラガン社より導入 (ガチフロキサシン点眼液のクロスライセンス) ・千寿製薬に導出(04年5月)
ケタス	米国 メディシノバ社	海外PhⅡ (05年8月)	脳血管障害治療薬	自社	・多発性硬化症の適応での日本、中国、 韓国、台湾を除く全世界における独占的 な開発、製造販売権を供与(04年10月) 08年4月 PhⅡの結果を公表
KCA-757	米国 メディシノバ社	海外PhⅢ (気管支喘息: 06年11月) 海外PhⅡ/Ⅲ (間質性膀胱炎: 05年5月)	気管支喘息治療薬 間質性膀胱炎治療薬	自社	・日本、中国、韓国、台湾を除く全世界に おける独占的な開発、販売権を供与 ・間質性膀胱炎:07年1月に結果を公表、 開発を中断 ・気管支喘息:海外PhⅢ一旦停止
KRP-203	スイス ノバルティス社	海外PhⅠ (07年7月)	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	・移植用の免疫調整剤として、全世界の開発及び 販売権、自己免疫疾患及びその他の疾患用剤と して、日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の 開発及び販売権(なお、炎症性腸疾患用剤と しては、全世界の権利を留保している)を供与 (06年2月)

過活動膀胱治療剤 ウリトス

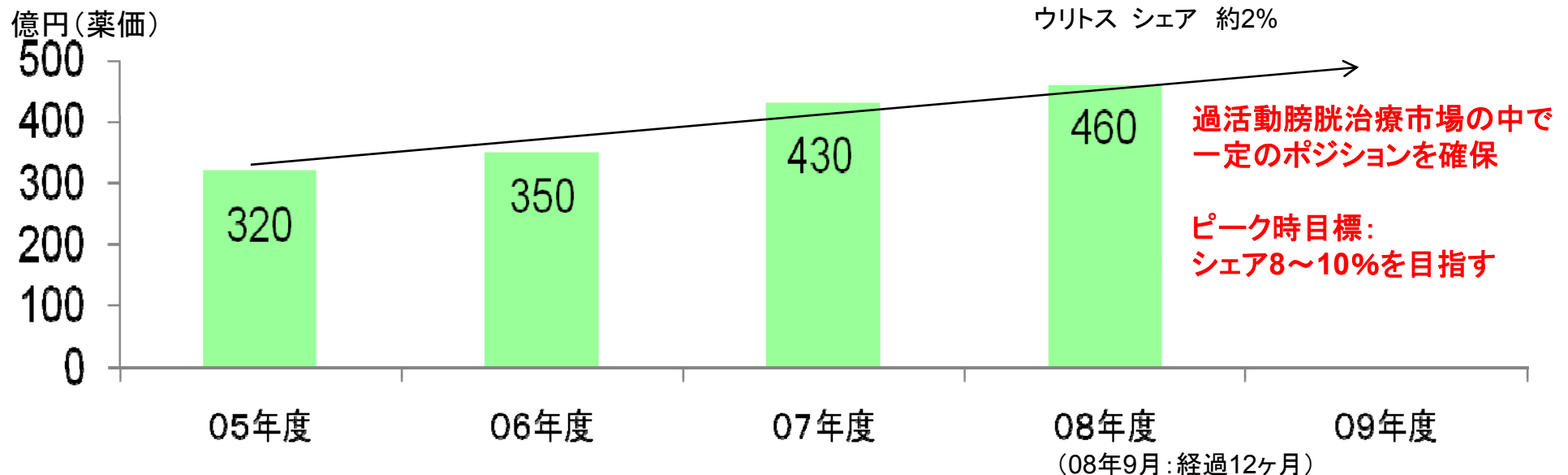
1. 実績と予想

07年度 上期実績 5億円	通期実績 7億円
08年度 上期実績 6億円	通期予想 19億円

2. 08年度の取り組み

08年度上期	08年度
<ul style="list-style-type: none"> ◆計画未達したものの、7月に投薬期間制限が解除となり、ウリトスの月商は1億円を突破 ◆高需要先を中心に採用軒数拡大を図るも、上期は目標軒数を若干下回る 	<ul style="list-style-type: none"> ◆泌尿器科医のウリトス評価は想定通り ◆泌尿器科を中心に非専門医（一般内科等）でも採用軒数拡大を図る

3. 過活動膀胱治療剤市場推移



ウリトスの使い易さを訴求し、市場浸透を図る

ロイコトリエン拮抗剤 キプレス

1. 実績と予想

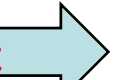
07年度
上期実績
79億円

通期実績
191億円

08年度
上期実績
104億円

通期予想
234億円

2. キプレスの取り組み

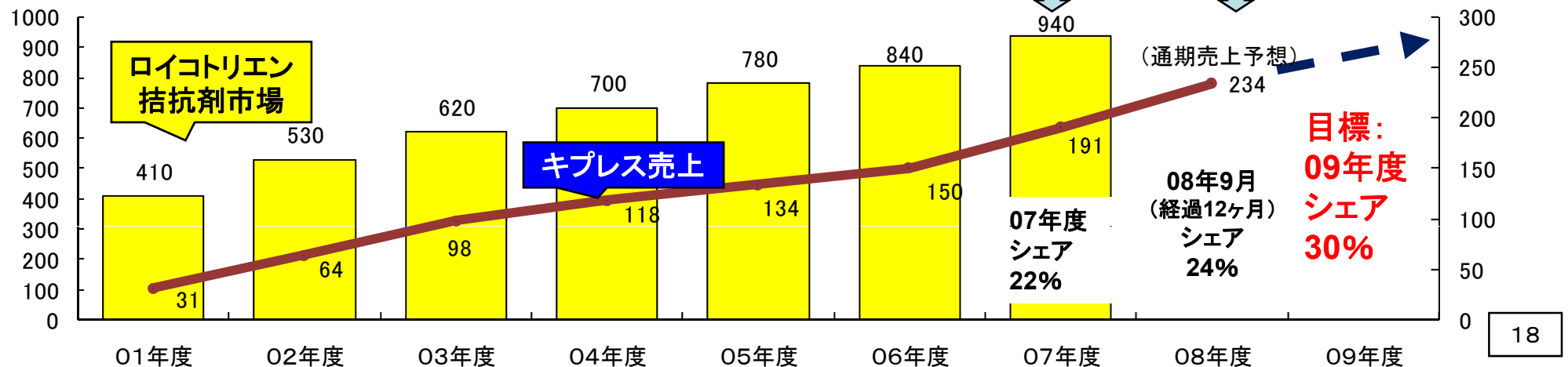
	1～5歳	6～14歳	15歳以上
気管支喘息	細粒4mg ・10月より投薬 期間制限解除	チュアブル錠5mg ・細粒4mgとの 相乗効果	錠10mg、錠5mg(2錠投与) ・吸入ステロイドとの併用ないしは 使い分け
* 乳幼児から成人まで全ての喘息患者さんの治療に貢献 			
アレルギー性鼻炎			錠10mg、錠5mg(1～2錠投与) ・処方拡大 ①安全性(眠気が少ない)の訴求 ②用法(1日1回) ③通年性、季節性の鼻炎に処方促進

3. ロイコトリエン拮抗剤市場推移

(億円:薬価)

◆細粒4mg 発売
◆錠10mg
アレルギー性鼻炎
効能追加

◆細粒4mg
投薬期間制限解除
◆錠5mg 発売



気道粘液調整・粘膜正常化剤 ムコダイン

1. 実績と予想

07年度 上期実績	90億円	通期実績	212億円
08年度 上期実績	87億円	通期予想	207億円

LCM: ライフサイクルマネジメントの略
FC: フランチャイズカスタマーの略

2. ムコダインの取り組み

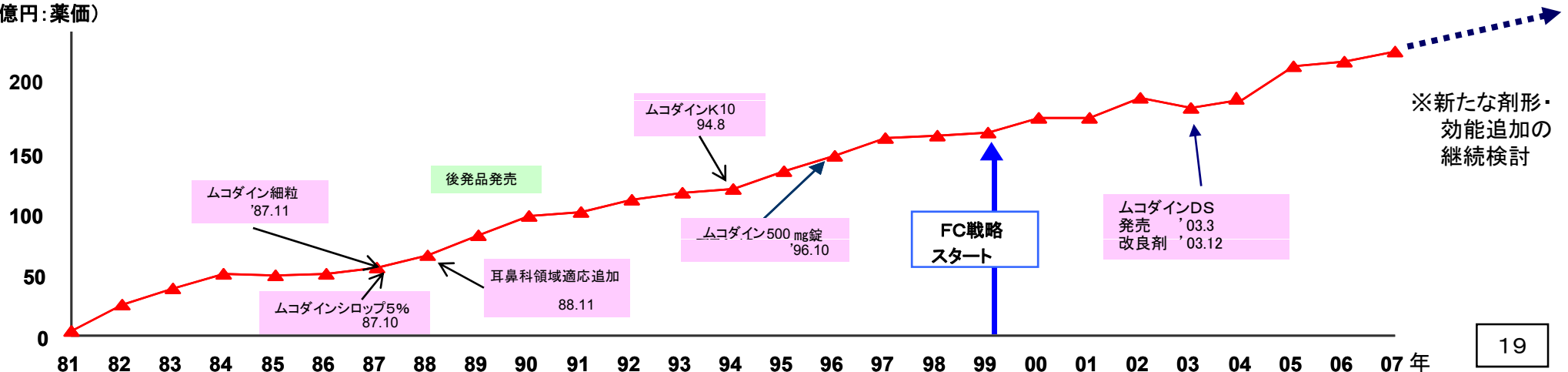
* 後発品の影響はあるものの、急性・慢性呼吸器疾患のベース薬として育成していく



呼吸器疾患のベース薬として育成し
08年9月(経過12ヶ月)シェア47%⇒09年度 シェア50%以上を目指す

3. ムコダインの売上推移

(億円:薬価)



潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬 ペンタサ

1. 実績と予想

07年度

上期実績
44億円

通期実績
88億円

08年度

上期実績
71億円

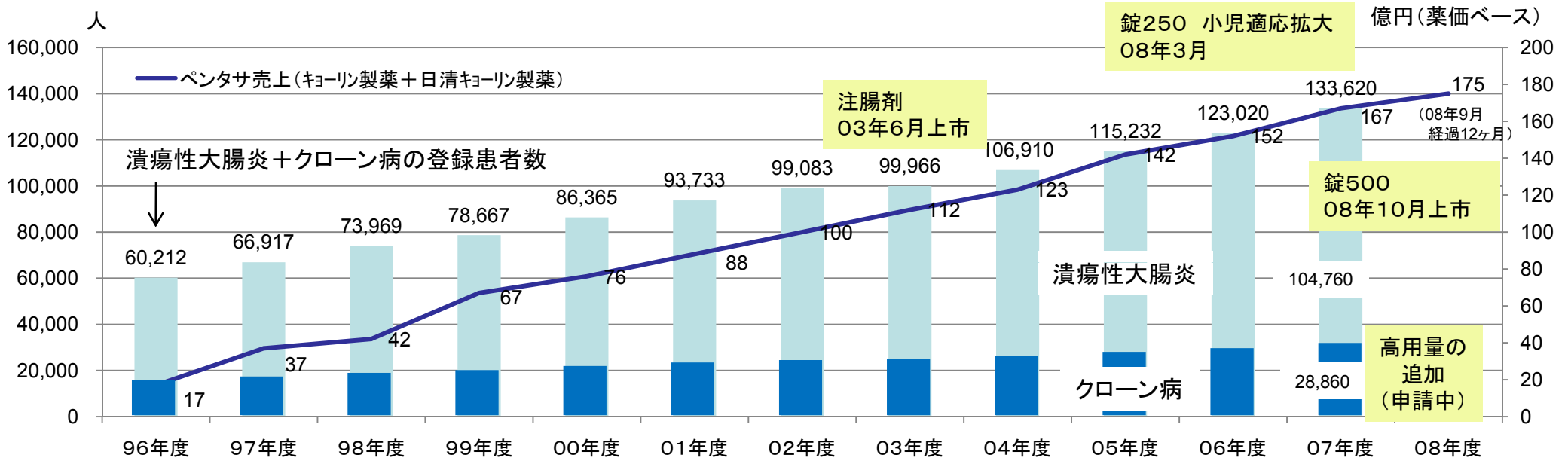
通期予想
155億円

2. 08年度の取り組み

最新情報提供の継続による
IBD領域でのペンタサ処方定着・拡大

中長期的に200億円製品に育成する

3. 炎症性腸疾患患者数とペンタサ売上推移



出典:キョーリン製薬

平成19年度 保健・衛生行政業務報告 厚生労働省

ビストナー事業ファンドの状況

・設立	2000年9月
・出資額	50億円(既出資額 44億円)
・投資状況	既投資先27件、投資額 27億円

対象領域	
創薬関連医薬領域	7件
医療関連領域	12件
健康食品領域	3件
コスメティック領域	3件
環境・その他	2件

健康食品領域

セーフテック
①44百万円
②無臭大豆粉の製造販売等

ドクタープログラム
①3,397百万円
②スキンケア用品の開発・販売

コスメティックス領域

創薬領域

医療電子精工
①—
②C型肝炎温熱治療装置開発

医療領域

JMA
①540百万円
②医療施設・機器賃貸

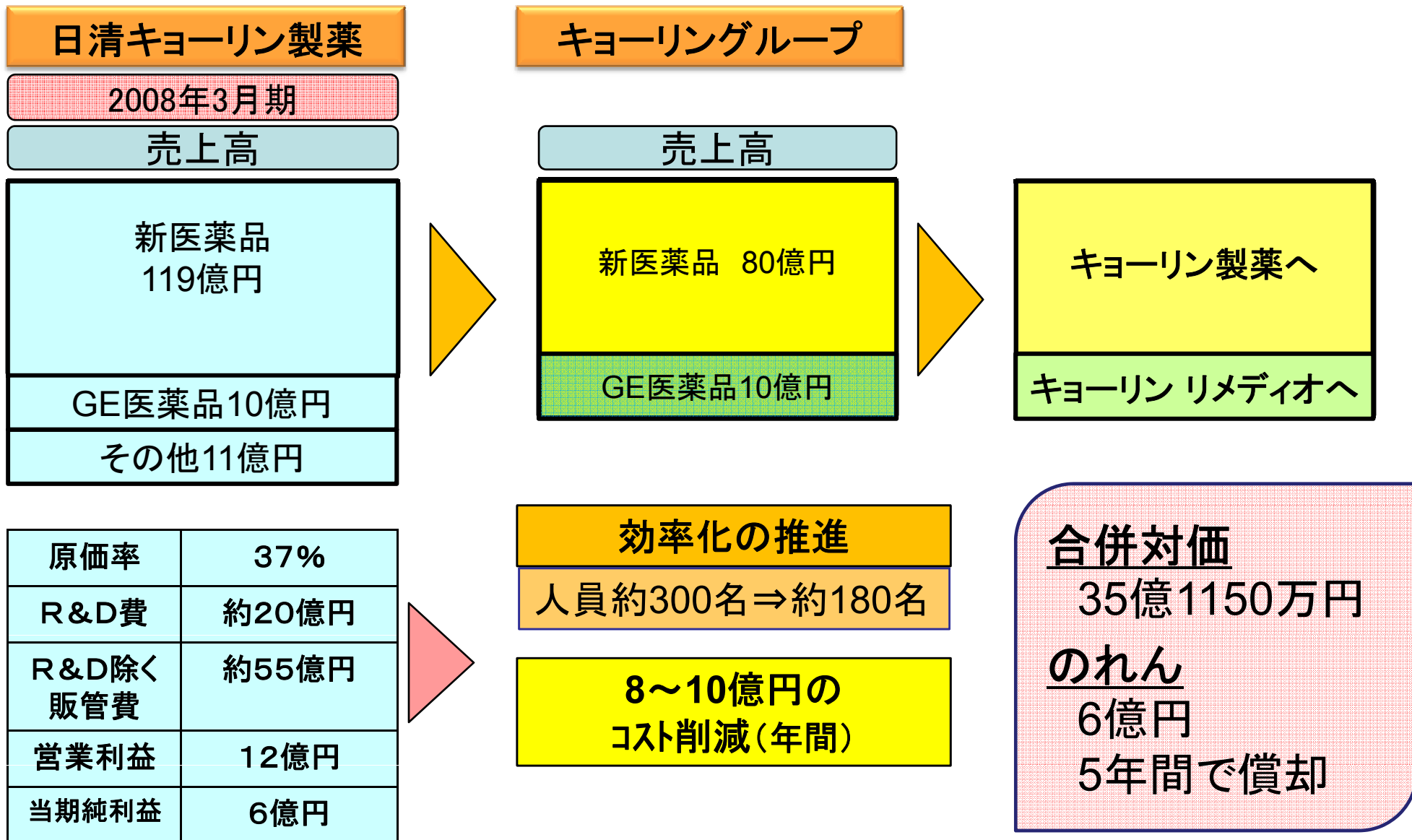
バイオセレント
①51百万円
②バイオ活性産廃分解等

- ①売上高 (前期実績)
- ②主な事業内容

環境・その他

- ファンドの運用管理強化により、投資先の早期ビジネス化
- ヘルスケア・ウェルネス領域を中心とした投資領域の選択

統合効果の最大限の発揮(イメージ)



参考資料：主な子会社の業績と予想

(単位:億円)

キョーリン製薬
売上高
営業利益
四半期(当期)純利益

08年3月期 第2四半期	09年3月期 第2四半期
342	344
31	17
17	▲3

08年3月期	09年3月期 (予想)
705	759
69	64
38	27

09年3月期 (当初予想)
778
76
51

キョーリン リメディオ
売上高
営業利益
四半期(当期)純利益

08年1月期 第2四半期	09年1月期 第2四半期
30	34
▲4	▲4
▲9	▲5

08年1月期	09年1月期 (予想)
60	77
▲7	▲3
▲14	▲5

09年1月期 (当初予想)
77
1
▲0

ドクタープログラム
売上高
営業利益
四半期(当期)純利益

08年1月期 第2四半期	09年1月期 第2四半期
16	19
▲2	▲1
▲1	▲1

08年1月期	09年1月期 (予想)
34	40
▲3	1
▲4	0

09年1月期 (当初予想)
40
1
0

2009年3月期第2四半期 決算概要 財務諸表の概況

損益計算書の概要：連結①

(単位:百万円)

	08年3月期 第2四半期		09年3月期 第2四半期累計期間			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	39,363	100.0%	40,261	100.0%	2.3%	897
新医薬品	32,801	83.3%	33,046	82.1%	0.7%	244
国内	30,289	76.9%	31,239	77.6%	3.1%	950
海外	2,512	6.4%	1,806	4.5%	▲28.1%	▲705
後発医薬品	2,539	6.5%	2,929	7.3%	15.4%	390
ヘルスケア	3,545	9.0%	3,684	9.2%	3.9%	139
その他	477	1.2%	600	1.5%	25.8%	123

<適応範囲及び持分法の適用について>

連結子会社9社：杏林製薬(株) (株)杏文堂 (株)ビストナー
 ビストナー壱号投資事業有限責任組合
 Kyorin USA,Inc. Kyorin Europe GmbH
 ActivX Biosciences,Inc.
 キョーリンリメディオ(株)
 ドクタープログラム(株)
 持分法適用会社2社：日清キョーリン製薬(株)
 日本理化学薬品(株)

<当期のポイント>

対前年

- 売上高 40,261百万円 (+ 897百万円)
- 国内新医薬品 31,239百万円 (+ 950百万円)

前期実績 当期実績 (億円)

- ・ムコダイン 90 → 87 (▲ 3)
- ・キプレス 79 → 104 (+ 25)
- ・ペンタサ 44 → 71 (+ 27)
- ・ウリトス 5 → 6 (+ 1)

* その他(バイナス、ヘスバンダーの自社販売終了)、一時金収入の減少等
 * ガチフロ錠は9月30日付で自主的に販売中止

- 海外新医薬品 1,806百万円 (▲ 705百万円)

- ・ガチフロキサシン 16 → 14 (▲ 2)

* 一時金収入の減少

- 後発医薬品 2,929百万円 (+ 390百万円)

* 重点商品の伸長、追補品・承継品による売上増加

- ヘルスケア 3,684百万円 (+ 139百万円)

- ・ミルトン 10 → 9 (▲ 1)

- ・ドクタープログラム社 16 → 19 (+ 3)

- その他 600百万円 (+ 123百万円)

損益計算書の概要：連結－②

(単位：百万円)

	08年3月期 第2四半期		09年3月期 第2四半期累計期間			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	39,363	100.0%	40,261	100.0%	2.3%	897
売上原価	14,701	37.3%	17,718	44.0%	20.5%	3,016
売上総利益	24,661	62.7%	22,542	56.0%	▲8.6%	▲2,119
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	21,873 (5,676)	55.6% 14.4%	21,298 (4,968)	52.9% 12.3%	▲2.6% (▲12.5%)	▲575 (▲708)
営業利益	2,788	7.1%	1,243	3.1%	▲55.4%	▲1,544
営業外収益	525	1.3%	418	1.0%	▲20.5%	▲107
営業外費用	195	0.5%	486	1.2%	148.4%	290
経常利益	3,118	7.9%	1,175	2.9%	▲62.3%	▲1,942
特別利益	5	0.0%	92	0.2%	1530.4%	87
特別損失	449	1.1%	3,116	7.7%	593.9%	2,666
税金等調整前 四半期純利益	2,675	6.8%	▲1,847	▲4.6%	—	▲4,522
法人税・住民税 及び事業税	842	2.2%	1,353	3.4%	60.7%	511
法人税等調整額	878	2.2%	▲1,594	▲4.0%	—	▲2,473
四半期純利益	953	2.4%	▲1,606	▲4.0%	—	▲2,560

<当期のポイント>

- ◆原価率：前年比 6.7ポイント上昇
(37.3%→44.0%)
* 上昇要因：薬価改定(約4%)の影響、一時金収入の減少、製品販売構成の変化
- ◆研究開発費率：前年比 2.1ポイント低下
(14.4%→12.3%)
* 57億円→50億円(7億円減少)
減少要因：前期は共同開発の費用の期ずれによる計上
増加要因：導入品フルチフォームの契約一時金を計上
- ◆販管費率(除R&D費)：前年比0.5ポイント低下
(41.1%→40.6%)
* 162億円→163億円(1億円増加)
- 営業利益 1,243百万円
(▲1,544百万円)
* 営業利益率は3.1%と4.0ポイント低下
- 四半期純利益 ▲1,606百万円
(▲2,560百万円)
* 特別損失：約31億円(ガチフロ約26億円、投資有価証券評価損約4億円等)
- 配当(第2四半期末) 4円00銭

貸借対照表の概要：連結

(単位：百万円)

<当期のポイント>

■ 流動資産： 3,150百万円増

- ・現金、預金の増加 (2,286百万円増)
- ・受取手形、売掛金の減少 (1,740百万円減)
- ・有価証券の増加 (215百万円増)
- ・棚卸資産の増加 (923百万円増)
- ・その他流動資産の増加 (1,468百万円増)

■ 固定資産： 2,249百万円減

- ・有形固定資産の減少 (224百万円減)
- ・無形固定資産の減少 (834百万円減)
- ・投資その他の減少 (1,190百万円減)

■ 流動負債： 3,892百万円増

- ・支払手形及び買掛金の減少 (414百万円減)
- ・その他流動負債の増加 (4,307百万円増)

■ 固定負債： 111百万円減

	08年3月期		09年3月期第2四半期累計期間		
	実績	構成比	実績	構成比	前期末増減
流動資産	66,016	53.9%	69,166	56.1%	3,150
現金および預金	10,647		12,933		
受取手形及び売掛金	28,995		27,254		
有価証券	2,209		2,424		
棚卸資産	19,770		20,693		
その他流動資産	4,392		5,860		
固定資産	56,382	46.1%	54,132	43.9%	▲2,249
有形固定資産	18,214		17,989		
無形固定資産	2,356		1,522		
投資その他	35,811		34,620		
資産合計	122,398	100.0%	123,299	100.0%	901
流動負債	19,201	15.7%	23,094	18.7%	3,892
支払手形及び買掛金	10,792		10,377		
その他流動負債	8,409		12,716		
固定負債	6,012	4.9%	5,901	4.8%	▲111
負債合計	25,214	20.6%	28,995	23.5%	3,781
株主資本	96,401	78.8%	94,192	76.4%	▲2,208
評価・換算差額等	782	0.6%	111	0.1%	▲671
純資産合計	97,184	79.4%	94,304	76.5%	▲2,879
負債及び純資産合計	122,398	100.0%	123,299	100.0%	901

研究開発費・設備投資・減価償却費の状況<連結>第2四半期



健康はキョーリンの願いです。

(単位:百万円)

	06年3月期 第2四半期	07年3月期 第2四半期	08年3月期 第2四半期	09年3月期第2四半期		09年3月期 (予想)	09年3月期 (当初予想)
				実績	増減比		
研究開発費	6,001	3,982	5,676	4,968	▲12.5%	11,000	12,200
設備投資(計上ベース)	982	1,223	1,451	1,115	▲23.2%	2,500	2,600
減価償却費	1,660	2,304	2,214	2,028	▲8.4%	3,800	4,000

<設備投資の状況(実績/計画)>

	08年3月期	09年3月期	
	実績	第2四半期実績	通期計画
(実績)			
工場設備	12億円		
管理・販売設備	2億円		
研究用設備	5億円		
(実績/計画)			
工場設備		3億円	10億円
管理・販売設備		5億円	8億円
研究用設備		3億円	7億円

研究開発費・設備投資・減価償却費の状況<連結>通期

(単位:百万円)

	04年3月期	05年3月期	06年3月期	07年3月期	08年3月期		09年3月期 (予想)	09年3月期 (当初予想)
					実績	増減比		
研究開発費	8,219	12,698	10,107	8,609	10,826	+25.7%	11,000	12,200
設備投資	5,670	6,172	4,605	2,954	1,952	▲33.9%	2,500	2,600
減価償却費	4,774	3,894	3,646	4,544	4,536	▲0.2%	3,800	4,000

<設備投資の状況(実績/計画)>

	08年3月期	09年3月期
	実績	計画
(実績)		
工場設備	12億円	
管理・販売設備	2億円	
研究用設備	5億円	
(計画)		
工場設備		10億円
管理・販売設備		8億円
研究用設備		7億円

主要製品売上の状況：第2四半期

	06年3月期 第2四半期	07年3月期 第2四半期	08年3月期 第2四半期	09年3月期第2四半期		09年3月期 (予想)	09年3月期 (当初予想)	
				実績	前 同 比			
国内新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	61	69	79	104	30.8%	234	216
	ガチフロ(自社販売) (合成抗菌剤)	11	11	11	9	▲18.7%	6	23
	ムコダイン (去痰剤)	85	89	90	87	▲3.9%	207	216
	バクシダール (合成抗菌剤)	3	3	2	2	▲13.4%	4	4
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害治療剤)	32	29	28	26	▲7.2%	52	52
	アプレース (抗潰瘍剤)	12	10	9	8	▲15.9%	15	16
	ロカルトロール (骨粗鬆症治療剤)	11	10	9	8	▲12.2%	16	16
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	36	40	44	71	62.5%	155	151
	ウリス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	—	—	5	6	25.9%	19	20
海外新医薬品	海外売上合計	42	22	25	18	▲28.1%	32	40
	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	35	18	16	14	▲12.3%	26	29
	ノルフロキサシン (バルク)	2	2	1	1	86.0%	1	2
	海外売上比率	12.6%	6.3%	6.4%	4.5%	—	3.6%	4.4%
ヘルスケア	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	11	10	10	9	▲2.5%	20	21

(単位：
億円)

主要製品売上の状況：通期



健康はキョーリンの願いです。

	05年3月期	06年3月期	07年3月期	08年3月期		09年3月期 (予想)	09年3月期 (当初予想)	
				実績	前 同 比			
国内 新薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	118	134	150	191	26.9%	234	216
	ガチフロ(自社販売) (合成抗菌剤)	23	25	25	23	▲5.9%	6	23
	ムコダイン (去痰剤)	190	199	204	212	3.6%	207	216
	バクシダール (合成抗菌剤)	7	6	6	5	▲12.2%	4	4
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害治療剤)	66	63	58	54	▲6.2%	52	52
	アプレース (抗潰瘍剤)	26	24	20	18	▲13.0%	15	16
	ロカルトロール (骨粗鬆症治療剤)	24	22	19	18	▲7.9%	16	16
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	64	73	80	88	9.3%	155	151
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	—	—	—	7	—	19	20
海外 新薬品	海外売上合計	88	86	58	43	▲24.8%	32	40
	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	80	67	32	30	▲7.2%	26	29
	ノルフロキサシン (バルク)	4	3	4	3	▲24.8%	1	2
	海外売上比率	13.3%	11.6%	7.5%	5.3%	—	3.6%	4.4%
ヘルスケア	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	23	21	21	19	▲5.8%	20	21

(単位：
億円)

主な業績項目の推移：連結

(単位:百万円)

	07年3月期 第2四半期	08年3月期 第2四半期	09年3月期 第2四半期	08年3月期	09年3月期 (予想)	09年3月期 (当初予想)
売上高 (海外売上高)	35,093 (2,246)	39,363 (2,518)	40,261 (1,835)	81,070 (4,367)	88,600 (3,200)	90,400 (4,000)
売上原価 (売上原価率)%	14,513 (41.4%)	14,701 (37.3%)	17,718 (44.0%)	31,757 (39.2%)	—	—
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	18,639 (53.1%)	21,873 (55.6%)	21,298 (52.9%)	43,061 (53.1%)	—	—
うち研究開発費 (研究開発费率)%	3,982 (11.3%)	5,676 (14.4%)	4,968 (12.3%)	10,826 (13.4%)	11,000 (12.4%)	12,200 (13.5%)
営業利益 (営業利益率)%	1,940 (5.5%)	2,788 (7.1%)	1,243 (3.1%)	6,251 (7.7%)	6,700 (7.6%)	8,000 (8.8%)
経常利益 (経常利益率)%	2,061 (5.9%)	3,118 (7.9%)	1,175 (2.9%)	6,643 (8.2%)	7,000 (7.9%)	8,400 (9.3%)
四半期(当期)純利益 (四半期(当期)純利益率)%	833 (2.4%)	953 (2.4%)	▲1,606 (▲4.0%)	2,189 (2.7%)	1,600 (1.8%)	4,900 (5.4%)
一株当たり当期利益(円)	11.21円	12.74円	▲21.48円	29.26円	21.39円	65.49円
資本金	700	700	700	700		
総資産	117,915	121,776	123,299	122,398		
純資産	94,993	97,427	94,304	97,184		
一株当たり純資産(円)	1,268.91円	1,301.82円	1,260.93円	1,298.89円		
自己資本利益率%	0.9%	1.0%	▲1.7%	2.2%		
自己資本比率%	80.0%	80.0%	76.5%	79.4%		
人員(人)	1,927人	2,003人	2,059人	2,003人		
設備投資	1,223	1,451	1,115	1,952	2,500	2,600
減価償却費	2,304	2,214	2,028	4,536	3,800	4,000

損益計算書の概要：キョーリン製薬単体①

(単位：百万円)

	08年3月期 第2四半期		09年3月期 第2四半期累計期間			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	34,171	100.0%	34,425	100.0%	0.7%	254
新医薬品	32,689	95.7%	32,998	95.9%	0.9%	308
国内	30,289	88.7%	31,239	90.8%	3.1%	950
海外	2,399	7.0%	1,758	5.1%	▲26.7%	▲641
後発医薬品	178	0.5%	146	0.4%	▲18.2%	▲32
ヘルスケア	1,303	3.8%	1,281	3.7%	▲1.7%	▲22

<当期のポイント>

- 売上高 34,425百万円 (+ 254百万円)
● 国内新医薬品 31,239百万円 (+ 950百万円)

対前年

前期実績 当期実績 (億円)

- ・ムコダイン 90 → 87 (▲ 3)
- ・キプレス 79 → 104 (+25)
- ・ペンタサ 44 → 71 (+27)
- ・ウリトス 5 → 6 (+ 1)

* その他 (バイナス、ヘスパンダーの自社販売終了)、一時金収入の減少等
* ガチフロ錠は9月30日付で自主的に販売中止

- 海外新医薬品 1,758百万円 (▲ 641百万円)

- ・ガチフロキサシン 16 → 14 (▲ 2)

* 一時金収入の減少

- 後発医薬品 146百万円 (▲ 32百万円)

- ヘルスケア 1,281百万円 (▲ 22百万円)

- ・ミルトン 10 → 9 (▲ 1)

損益計算書の概要：キョーリン製薬単体－②



(単位：百万円)

	08年3月期 第2四半期		09年3月期 第2四半期累計期間			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	34,171	100.0%	34,425	100.0%	0.7%	254
売上原価	11,522	33.7%	14,096	40.9%	22.3%	2,573
売上総利益	22,648	66.3%	20,328	59.1%	▲10.2%	▲2,319
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	19,571 (5,155)	57.3% 15.1%	18,642 (4,508)	54.2% 13.1%	▲4.8% (▲12.6%)	▲928 (▲647)
営業利益	3,076	9.0%	1,685	4.9%	▲45.2%	▲1,390
営業外収益	347	1.0%	456	1.3%	31.4%	109
営業外費用	100	0.3%	16	0.0%	▲83.5%	▲84
経常利益	3,323	9.7%	2,125	6.2%	▲36.0%	▲1,197
特別利益	9	0.0%	76	0.2%	723.9%	66
特別損失	83	0.2%	2,646	7.7%	3070.9%	2,562
税引前 四半期純利益	3,249	9.5%	▲443	▲1.3%	▲113.7%	▲3,692
法人税・住民税 及び事業税	647	1.9%	1,257	3.7%	94.3%	610
法人税等調整額	868	2.5%	▲1,421	▲4.1%	▲263.6%	▲2,289
四半期純利益	1,733	5.1%	▲280	▲0.8%	▲116.2%	▲2,013

<当期のポイント>

- ◆原価率：前年比 7.2ポイント上昇
(33.7%→40.9%)
* 上昇要因：薬価改定(約4%)の影響、一時金収入の減少、製品販売構成の変化
- ◆研究開発費率：前年比 2.0ポイント低下
(15.1%→13.1%)
* 52億円→45億円(7億円減少)
減少要因：前期は共同開発の費用の期ずれによる計上
増加要因：導入品フルチフォームの契約一時金を計上
- ◆販管費率(除R&D費)：前年比1.1ポイント減少
(42.2%→41.1%)
* 144億円→141億円(3億円減少)
- 営業利益 1,685百万円
(▲1,390百万円)
* 営業利益率は4.9%と4.1ポイント低下
- 四半期純利益 ▲280百万円
(▲2,013百万円)
特別損失：約26億円

貸借対照表の概要：キョーリン製薬単体

(単位:百万円)

	08年3月期		09年3月期第2四半期累計期間		
	実績	構成比	実績	構成比	前期末増減
流動資産	57,044	54.4%	60,156	56.5%	3,112
現金および預金	7,755		10,210		
売掛金	25,895		23,884		
有価証券	2,007		2,272		
棚卸資産	17,156		17,913		
その他流動資産	4,229		5,875		
固定資産	47,866	45.6%	46,321	43.5%	▲1,544
有形固定資産	14,771		14,373		
無形固定資産	1,450		778		
投資その他	31,644		31,169		
資産合計	104,910	100.0%	106,478	100.0%	1,568
流動負債	13,824	13.2%	16,784	15.8%	2,960
支払手形	1,560		2,678		
買掛金	6,407		4,913		
その他流動負債	5,855		9,192		
固定負債	4,293	4.1%	4,336	4.1%	42
負債合計	18,118	17.3%	21,121	19.8%	3,003
株主資本	86,140	82.1%	85,303	80.1%	▲837
評価・換算差額等	651	0.6%	53	0.1%	▲597
純資産合計	86,792	82.7%	85,356	80.2%	▲1,435
負債及び純資産合計	104,910	100.0%	106,478	100.0%	1,568

<当期のポイント>

- 流動資産： 3,112百万円増
 - ・現金及び預金の増加 (2,454百万円増)
 - ・売掛金の減少 (2,010百万円減)
 - ・有価証券の増加 (265百万円増)
 - ・棚卸資産の増加 (756百万円増)
 - ・その他流動資産の増加 (1,645百万円増)
- 固定資産： 1,544百万円減
 - ・有形固定資産の減少 (397百万円減)
 - ・無形固定資産の減少 (672百万円減)
 - ・投資その他の減少 (474百万円減)
- 流動負債： 2,960百万円増
 - ・支払手形の増加 (1,117百万円増)
 - ・買掛金の減少 (1,493百万円減)
 - ・その他流動負債の増加 (3,336百万円増)
- 固定負債： 42百万円増

主な業績項目の推移: キョーリン製薬単体

(単位:
百万円)

	07年3月期 第2四半期	08年3月期 第2四半期	09年3月期 第2四半期	08年3月期	09年3月期 (予想)	09年3月期 (当初予想)
売上高 (輸出高)	30,268 (2,223)	34,171 (2,399)	34,425 (1,758)	70,480 (4,155)	75,900 (3,200)	77,800 (3,900)
売上原価 (売上原価率)%	11,385 (37.6%)	11,522 (33.7%)	14,096 (40.9%)	25,217 (35.8%)	—	—
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	17,110 (56.5%)	19,571 (57.3%)	18,642 (54.2%)	38,319 (54.4%)	—	—
うち研究開発費 (研究開発费率)%	3,808 (12.6%)	5,155 (15.1%)	4,508 (13.1%)	9,959 (14.1%)	10,500 (13.8%)	11,500 (14.8%)
営業利益 (営業利益率)%	1,772 (5.9%)	3,076 (9.0%)	1,685 (4.9%)	6,942 (9.8%)	6,400 (8.4%)	7,600 (9.8%)
経常利益 (経常利益率)%	1,666 (5.5%)	3,323 (9.7%)	2,125 (6.2%)	7,328 (10.4%)	7,400 (9.7%)	8,400 (10.8%)
四半期(当期)純利益 (四半期(当期)純利益率)%	953 (3.2%)	1,733 (5.1%)	▲280 (▲0.8%)	3,776 (5.4%)	2,700 (3.6%)	5,100 (6.6%)
一株当たり当期利益(円)	12.84円	23.34円	▲3.78円	50.85円		
資本金	4,317	4,317	4,317	4,317		
総資産	108,252	104,454	106,478	104,910		
純資産	91,476	86,141	85,356	86,792		
一株当たり純資産(円)	1,231.71円	1,159.87円	1,149.31円	1,168.63円		
自己資本利益率%	1.0%	2.0%	▲0.3%	4.4%		
自己資本比率%	84.5%	82.5%	80.2%	82.7%		
人員(人)	1,524人	1,532人	1,567人	1,517人		
設備投資	967	729	577	1,350	1,700	1,800
減価償却費	2,074	1,880	1,656	3,844	3,100	3,200